

第 1 回北本市高齢者福祉計画 2024・第 9 期介護保険事業計画策定委員会 意見一覧

No.	意見者	意見
1	鈴木委員	・ちょこっと困りごとサービスは、パンフレットや社協だより（年 4 回発行）で周知している。住民の方の協力を得て実施していることもあるので、例えば、草取りは希望も多いが、30 分で終わらないような広い範囲の草取りは対応が出来ない。
2	川島委員	・ちょっとしたことはほとんど社協のちょこっと困りごとサービスで解決出来る。 ・福祉支援票は 65 歳以上から 75 歳以上に引き上げられた。民生委員から、なぜ自分より若い人の調査をしなくてはならないのかという意見もあがっていた。調査対象の年齢引き上げは英断だったと思う。
3	清宮委員	・介護人材が慢性的に不足しており、高齢化を支えていけるか不安。 ・複雑な状況にある家庭が増えている印象。また、独居というだけではなく、身寄りが居ない人が増えてきている印象。 ・ごちゃまぜの会での経験から、直接サービスに携わる人のみではなく全く関係のない人の助けも必要。
4	吉岡委員	・柔軟な移送サービスがあると良い。デマンドバスは、介助が必要だと利用を断られてしまい、利用者本人にヘルパー利用を勧めてもお金がかかるからと消極的。 ・ケアマネジャーが不足している。 ・ハラスメントの窓口が不足している。 ・虐待など複雑なケースの対応をしっかりとしていないといけないと思っている。
5	中村委員	・診療に来て具合が悪くなった患者さんで、身寄りが居ない方を 1 人では家に返せない。具合を見て帰って頂いている。 ・近年、骨粗しょう症の患者さんが増えている。2 人に 1 人は骨粗しょう症。転倒骨折や圧迫骨折につながっていく。
6	田中委員	・独居で 65 歳になってからの社会参加は厳しい。家族から「行ったらどう？」と言われたから参加した、とか「仲の良い友達が行かなくなったら行かなくなった」など周りの人の存在も作用している。支えあいの体制として、若い人の参加率を指標にしてはどうか。
7	奥山委員	・65 歳以上は働いている人が多くなっており、社会参加する人は少ない。65 歳以上だけでなく、各年齢層ごとの社会参加の指標を示してはどうか。